

かがやきプラス 中学生家庭版



テーマ **健やかな成長と大人の関わり**

「あんなに素直だった子がどうして？」

むとう小児科医院 院長 むとう かずひこ
武藤 一彦

不登校という心の病気？

私は以前、特別支援学校を併設する病院にスタッフとして関わっていました。

中学1年生のA君が、5月の連休後に腹痛や頭痛を訴えるようになり、学校を休みがちになりました。現在は、ほとんど欠席状態のようです。ビックリした親御さんが、本人を連れて慢性疾患を治療する病院に來られました。特別支援学校を併設する病院というをご存じで來られたようです。お話をお聴きすると、小さい頃から素直で親の言うことをよく聞いてくれる子どもさんとのことでした。入院して特別支援学校に通学することになり、親が帰ろうとすると、A君は「絶対に入院しない。」と父親の手を離しません。素直なA君の初めての力を込めた反抗でした。1時間ほどすったもんだした後、A君はあきらめました。腎臓病や喘息などの慢性疾患の病棟に、不登校の子が初めて入院してきました。その後、心の病気を持った子ども達が病棟内に増えてきました。

病院スタッフにとっても試練でした。でも、彼らと付き合ううちに、本当に優しい子ども達だと感じました。優しさゆえに、親に気を遣ってしまい、いい子になり過ぎ、子どもらしさの表現である甘えやわがママを押さえてしまうのです。そして、心の成長が遅れるのです。やんちゃな時期を経て、人とぶつかり合いながら成長するのです。反抗期は必要不可欠な大事な成長過程です。

私の受け持った小学校3年生の男の子は、誰彼なくゲンコツで胸を殴るので、学校では対応できないと言われました。彼は、私にも強烈な一発を食らわせました。だと言って反撃するわけにもいきません。「ウーッ」とこらえて、何食わぬ顔で対応しました。事前に、彼が父親に虐待されながら育ったということを知っていたからです。ここで殴り返したら、彼の嫌う父親と一緒にになってしまうのです。彼の信頼を得るには、殴らない人間もいることを教えることです。何発かの乱暴な挨拶を受け入れるうちに、彼のパンチの力に加減を感じ

るようになりました。後は、言葉のコミュニケーションです。彼が付けた私のあだ名は「ムトラン」でした。当時、「むとうのランドセル」というテレビコマーシャルがあったのです。

母親に、家庭の様子を聴きました。家庭内暴力(DV)に違いないのですが、母の愛に恵まれず育った父親にとって、結婚した女性は母であり、生まれた子どもはライバルだったようです。人間という生き物の複雑さに心が痛みました。悪い人間はいないのです。しかし、その人間が作り出す悪い環境はいくらでもあります。

素直という我慢

様々な心の病気の子も達との出会い、その状況を理解するたびに、心の病気とは、追い詰められた人間がさらに生きるためにとる、止むに止まれぬ無意識の行動ではないかと考えるようになりました。しゃべらず動かない、その場でおしっこまで漏らしてしまう女の子は、病院内でも同様でした。しかし、気の合う子どもと友達になるにつれて、その子とお話しして、いつの間にか歩いている姿を見かけるようになりました。外の世界とは違って、自分を守る必要がなくなったのです。

約1年後、彼女から「退院させてください。」という手紙をもらいました。そして退院しました。その後結婚し、子どももいるという噂を聞きました。



病院の中で子どもに戻った彼らは、みんなたくましく羽ばたいていきました。少しばかり寄り道をただけだったので。

家庭における爺婆の存在

核家族が増えています。赤ちゃんを抱くのが、自分の子を出産して初めてというママも多いです。情報はあふれていますが何を信じて良いか分からない。もう学校で「子育ての授業」があっても良い時代です。小学校から少しずつ、実践を交えながら赤ちゃんの育て方を中心に、性教育も含めて勉強する。子どもの存在は、親にとって楽しみでもあり、苦しみでもあることを学びたいです…子育て授業だけを好きになる子がいるかもしれませんが、将来は愛情深い親になること請け合いです。

現実には、コミュニケーションの苦手なママは、本やインターネットから仕入れた情報で、子育てをしています。本に書かれた通りに行かないとイライラして、子どもにつき暴力をふるってしまうこともあるでしょう。2世帯住宅で、お年寄りの知恵が伝わるとしても、隣や上下に住んでいても情報の交換が十分で無いことを感じます。

ママ：「熱でたから病院へ連れてって。」

お婆ちゃん（ドクターの前で）：「いつも見てないから分からない。」

ドクター：「今度はママに病状のメモをもらって来てね。」

いつもの外来の会話です。

突然、お婆ちゃんと同じ格好をするようになった中学生の女の子がいました。どうしてだろうと、お母さんにお話を聴きました。

「妹がいるんだけど、その子ができるのでつい比較してしまっ。」

お母さんはだいたいの原因は分かっているようです。

腰の曲がったお婆ちゃんは、優しく「はい、はい。」と両手を合わせながら拝むようにお辞儀をするのですが、この子ども同じように、眼を細めて同じ仕草をするのです。いつまでもその格好を続けています。家庭内で尊敬され、誰にでも優しいお婆ちゃんになりたかったのでしょうか。平等な存在であるお婆ちゃんに救われたのです。

子どもは天使

子どもはこの世の中で一番優しい存在です。家族の中で喧嘩をした時、いつもはしない、お手伝いをしてくれます。仲が良くなるように、家族の仲を取り持って言葉をかけてくれます。家族が仲良い時は、甘えます。甘えすぎて怒られます。親や大人の顔を見ながら行動しています。つまり気遣いの人であり、その経験を通して人間として成長します。

心に病気を持った子どもの治療は、難しくありません。人間が信頼できること、そして、生きることが楽しいと教えてあげることが最高の治療法です。病院に入らなくても、家庭でそれを教えてあげられたら最高だと思います。親に少し余裕があったら見つめてあげる、誕生日には好きな食べ物を作ってあげる、良いことをしたらほめてあげる、悪いことをしたら一生懸命しかる。一つひとつの思い出が、生きるエネルギーになるのです。

子育ては、片手間にできる仕事ではありません。真剣に立ち向かうべき仕事です。母親の子育てエネルギーは相当なものです。そのエネルギーをすべて子どもに向けても不足気味です。核家族の多い現在、父親がお手伝いするのは時代の流れです。父親の育児休暇制度を存分に活用するべきです。父親が親としての認識を持って子育てを支援した時、多くの問題が解決できるような気がします。夫婦や家族の間で子育ての話が弾むとき、互いの仲が深まるでしょう。生まれてきた子どもが、仲の良い父母や家族に出会うことは何にも増して幸せなことです。

そして、みんなの心に「人生は楽しむためにある」という言葉が芽生えたなら、心の病気は退散し、ワーク・ライフ・バランス（*）という新しい世界が開けることでしょう。

（*）ワーク・ライフ・バランス（英：work-life balance）とは、「仕事と生活の調和」と訳され、「国民一人ひとりがやりがいや充実感を持ちながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる」ことを指す。



家庭教育学級の紹介

金沢市立西南部中学校PTA 「せいなん学級」

講演会&意見交換会 子どもと話すとき、ちょっと心掛けてみませんか？
～自立心を育む、大切な言葉～

平成 28 年 7 月 15 日 (金) 19:00 ~ 20:30

【ところ】 西南部中学校 第 1 コンピュータ室

【参加者】 大人 39 名

【講師】 齊藤佳都美氏 (子褒めサポーター)



【ねらい】 子どもの自立心を育むための、会話によるコミュニケーションを深めるコツを学ぶ。

【内容】

中学生という難しい時期の子どもたちと関わるのに必要なことは何か、そのために親としてしなければいけないことは何かを講演会や意見交換会を通して、保護者同士が気軽に話をする場を設けた。“励ます・認める・思いやる” そんな言葉かけが大切であることを踏まえ、今までの子どもとの接し方をふり返りつつ、これからの関わり方を話し合った。

- 普段ゆっくりと考えることのないことを改めて考える機会を持ててよかった。各家庭、いろいろな悩みや考えがあり、とても参考になった。
- グループディスカッションでは、別の学年の保護者や先生方の意見を聞くことができ参考になった。講師の方の話も分かりやすく、もっとお話を聞きたかった。
- 話し合いでは共感できることがたくさんあり、楽しい時間だった。やはり皆さん、子どものことは心配だし、大事になさっているんだと安心した。
(参加保護者)



玄関でみんなのくつを並べながら思いついた
最近家族三人で川の字で寝ていないなあと思い、
お父さんとお母さんのくつの間に私のくつをおいた

富山県射水市
中学校 1 年 橋本 麻央

「勝ってこい！」初めて言われた父の言葉
涙で帰った その夜に
そっと言われた「おつかれさん」

埼玉県さいたま市
中学校 3 年 川村 恵斗

早寝早起き朝ごはん
基本だけれど母さんは
遅寝早起き朝ごはん
母さんいつもありがとう

長野県茅野市
中学校 3 年 矢澤 恒汰

あなたの声、
半音上がってわかる隠しごと
b 半音下がってわかる悩みごと
母の耳は絶対音感。

静岡県静岡市
一般 庭野 知子

武藤一彦先生の推薦する子育て参考書

●『人間になれない子どもたち～現代子育ての落とし穴～』（清川輝基^{えい}：榎出版社）

人間の子どもを「メディア漬け」にして育てると、からだや心、コミュニケーション能力の発達にどのような歪みや遅れが現れるのか。日本の子どもたちの生命感覚の歪み、からだの危機に警鐘を鳴らす一冊です。

●『完 子どもへのまなざし』（佐々木正美：福音館書店）

『子どもへのまなざし』（98年）『続 子どもへのまなざし』（01年）に続くシリーズ完結編です。とくに今、テレビや新聞などでも問題になっている、家庭の崩壊や子どもの虐待、さらに学校や地域社会が力を失ってきた現状をとりあげ、この現代社会のなかで子どもにどう接していけばいいのか、あるいは、大人一人ひとりが社会と関わりながら、どのように自分の人生を充実させていけばいいのか、一緒に考えていく一冊です。後半では「発達障害」の子どもについても述べられています。佐々木先生が、人を本当に大切にしていることが伝わってくる内容です。

◆親子のイベント情報◆

キゴ山親子自然体験塾・春

テント泊、野外遊び、自然観察、
キャンプファイヤー、野外炊飯、天体観望

- 日時 5/27(土)9:00～5/28(日)14:00 [1泊2日]
- 会場 銀河の里キゴ山
- 対象 金沢市内の小中学生とその保護者
- 参加費 2,500円/人
- 申込み 往復ハガキ
〒920-1141 金沢市平等本町力13-1
銀河の里キゴ山
(申込み受付:4/25～5/5・多数時抽選)
※注意 申込記載事項はHPで確認
- 問い合わせ先 Tel.076-229-1141

めおとすぎ 娯杉少年の森 春の親子キャンプ

- 日時 5/20(土)10:00～5/21(日)14:00 [1泊2日]
- 会場 娯杉少年の森
- 対象 金沢市内在住の高校生までの子どもを
含む家族
- 参加費 無料
- 申込み 往復ハガキ
〒920-8577 金沢市広坂1-1-1
金沢市教育委員会生涯学習課
(申込み受付:4/11～4/28 当日消印有効・多数時抽選)
※注意 記載必要事項はHPで確認、
食材は各自持参、テントは貸出可
- 問い合わせ先 Tel.076-220-2441

平成29年度 出前講座「みんなで家庭教育！」企業の活力、地域の活力は元気な家庭から

みなさんの職場や地域の研修等に、金沢市教育委員会生涯学習課が講師を派遣し、家庭教育講座を行います。講師に関する謝金（上限あり）は、生涯学習課が負担します。場所と時間をご準備ください。詳しくは、下記金沢市教育委員会生涯学習課までお電話で問い合わせください。

家庭教育の相談窓口の紹介

金沢市教育プラザ富樫 金沢市子ども 総合相談センター	①電話相談	お子さんや子育てに関する悩みごとについて、電話でお応えいたします。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.076-243-0874
	②子ども専用 相談ダイヤル	子ども専用の通話料無料の相談電話です。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.0120-92-8349
	③いじめ電話相談	いじめに関する悩みごとについて、電話でお応えします。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.076-243-1019
	④虐待通報	子どもの虐待に関する通報を24時間体制でお受けします。	Tel.076-243-8348
	⑤児童相談所	18歳までが対象です。相談内容は養護、保健、心身障害、 非行、育成、虐待等です。(平日9:00～17:45)	Tel.076-243-4158
金沢市家庭教育サポーター	身近な地域の家庭教育サポーターが相談に応じます。 (連絡先 金沢市教育委員会生涯学習課 平日9:00～17:45)		Tel.076-220-2441

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」は、家庭教育について考えていただく目的で発行しました。

年2回の発行を予定しています。家庭教育にご活用ください。

かなざわ家庭教育通信「かがやきプラス」へのご感想・ご意見がありましたら、下記までお知らせください。

〒920-8577 金沢市広坂1-1-1 金沢市教育委員会生涯学習課 Tel.076-220-2441 Fax.076-220-2488

E-mail syougaku@city.kanazawa.lg.jp